



## 2018年度活動報告 現代日本プログラム(CJP)の日本語授業

著者	山本 真理
雑誌名	関西学院大学日本語教育センター紀要
号	8
ページ	63-64
発行年	2019-03
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10236/00028098">http://hdl.handle.net/10236/00028098</a>

## 2018 年度活動報告 現代日本プログラム（CJP）の日本語授業

山本 真理（関西学院大学日本語教育センター）

### 1. 現代日本プログラム（CJP）の特徴

本学は海外協定校（約 200 校、2018 年 3 月現在）のうち 140 校を超える大学と学生交換協定を結んでいる。2018 年度秋学期は、アメリカ、ドイツ、台湾、韓国、カナダ等 20 カ国の協定大学より約 150 名の交換留学生在が来日し、本センターの現代日本プログラム（Contemporary Japan Program (CJP)）に参加した<sup>1</sup>。

本プログラムでは交換留学生的のニーズに対応するため、二つの専攻が設けられている。一つは日本語専攻（Japanese Language Track（以下、JLT））で、日本語学習が主目的の学生を対象としている。もう一つは現代日本専攻（Modern Japan Track（以下、MJT））で、英語で開講される科目で日本の文化、社会、経済などを学ぶ学生を対象としている。日本語学習は必須ではないが、希望すれば選択科目の日本語科目が履修できる。いずれのプログラムの留学生在も留学期間は 2 セメスター（10 ヶ月）、もしくは 1 セメスター（4 ヶ月）である。2018 年度秋学期来日の留学生的のうち、半数近くの 66 名が 2019 年度春学期までの 2 セメスター（10 ヶ月）、残りは 1 セメスター（4 ヶ月）の在籍であった。また、本プログラムの特徴の一つに、秋学期から春学期にかけて 2 セメスター在籍する JLT 学生が長い春休み期間に日本語科目を履修できる点があげられる。この期間にはプロジェクトワークなど、通常学期には経験できない内容の科目が準備されており、他大学に類を見ない取り組みである。実際に本学への留学を希望する際の一つの理由にもなっている。

### 2. 日本語授業の概要と取り組みについて

本センターが提供する日本語科目は初級レベルから上級後半レベルの 7 段階に分けられている。履修できる科目は、来日直後に受験する本センターオリジナルのプレースメントテストの結果で決まる。最も高いレベルの学生は、一般の学部授業も履修することができる。

JLT の学生は、ひらがな・カタカナの読み書きができることが条件となっており、必修の日本語科目（6 単位）がある。必修科目では、読む、書く、聞く、話す、の 4

---

<sup>1</sup> なお、本学に在籍する大学院留学生在についても希望があれば日本語科目の履修を受け入れており、2018 年度秋学期は 5 名の留学生在が日本語科目を履修した。いずれも来日して間もない入門から初級レベルの学生であり、本センターでの日本語学習の機会の重要性を示している。

技能をバランス良く、着実に伸ばすことが目指されている。その他に、読解、文章表現、聴解、口頭表現、表現法、文化などの選択科目（全 16 科目）があり、自分のレベルや興味に合わせて選択できる。一方、MJT の学生は、MJT のために準備されている科目（週 2 回開講、週 1 回開講など全 4 科目）があり、入門から学ぶことができる。また、JLT 学生と同様、選択科目（全 16 科目）や漢字・語彙科目（JLT 学生は必修、全 7 科目）も履修することができる。

本センターには、経験豊かな教員（常勤 7 名、非常勤 9 名（2018 年度秋学期現在））が在籍しており、全ての教員が最新の研究や教育方法を学びながら学生によりよい授業を提供できるよう工夫を凝らしている。教員が必要とする場合には、本学学生のボランティアや LA（ラーニングアシスタント）が利用できる制度も整っており、留学生が本学の学生らと交流する機会が授業内に多くある。

### 3. その他の取り組み

本センターの取り組みとして特筆すべきことの一つに、「日本語パートナー制度」がある。これは、JLT 学生の希望者全員に対しおよそ 2 名の本学の学生ボランティアが付き、日本語会話の練習相手として活動するものである。2018 年秋学期は JLT 日本語パートナー希望者が 77 名おり、172 名の学生（学部生・大学院生）が活動をした。

更に、2018 年度は留学生 Week（毎年 6 月下旬に 1 週間ほど開催）の期間中、留学生が学内の様々な学生と交流する機会を設けるため、各科目の担当者は積極的に教室を飛び出してキャンパス内にいる本学の学生にインタビューを行ったりするなど、様々な試みを行った。

このほかに、本センターは学外の留学生向けの日本語スピーチコンテスト参加の広報・必要に応じたサポート、本学初等部の交流授業への参加の広報・橋渡しなど、学生が充実した留学生活を送れるよう様々な取り組みを行った。

### 4. 今後の課題と展望

現在実施している現代日本プログラム（CJP）は前コーディネーターを中心に多様化する留学生のニーズに対応するために整備され、2016 年秋学期より実施が開始された。現コーディネーターの筆者は本プログラムが動きだした 2017 年 4 月に着任し、2018 年春学期よりコーディネーター業務を引き継いだ。本プログラムが本格的に始動し丸 2 年が経った今年度はプログラム立ち上げ時のコンセプトを新たに加わった教員らとも丁寧に確認しながら、よりよいプログラムにするために各レベル間のつながりの微調整などを行った。今後も本学で学ぶ留学生たちにとってよい教育を提供できるよう改善に取り組んでいきたい。